

2022年4月21日(木)

研究計画

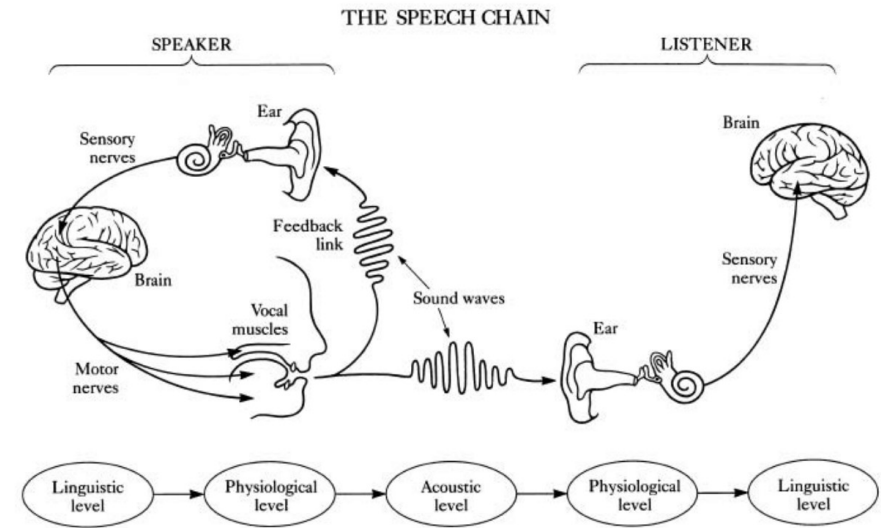
B4 音声班 加藤隆聖

目次

- 研究の背景
- 研究の目標
- リサーチクエスチョン
- 先行研究
- ガントチャート

研究の背景

- 話し手から発せられた音声と聴き手が音声を知覚するまでの過程にはつながりがある[1]
- 音声のみに注目してしまうとパラ言語情報を認知すること自体や表出方法が曖昧になる



The speech chain [1]より抜粋

➡ 音声のみに注目すべきではない

研究の目標

- 日常におけるパラ言語表現は会話相手によって共起するのか
 - 対話と対話のパラ言語表現を比較・分析
 - 対話のスピーキングスタイルを見つける
 - 会話を比較可能な軸を見つける

研究の目標

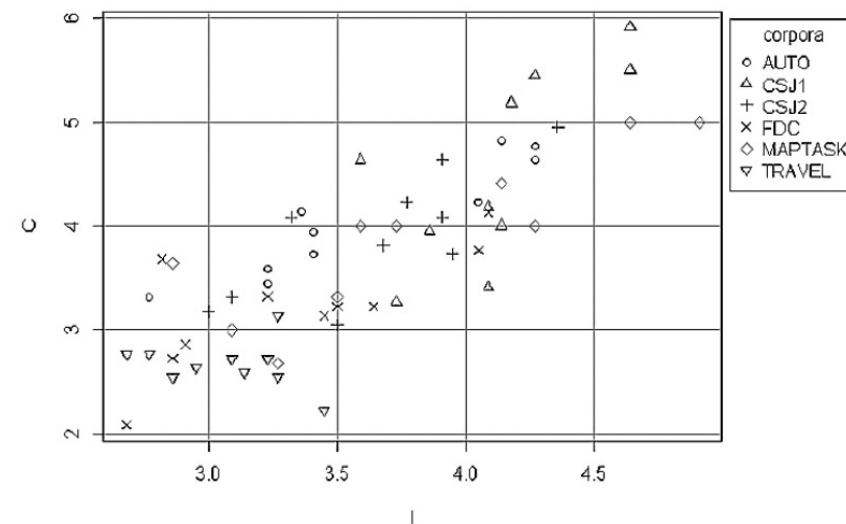
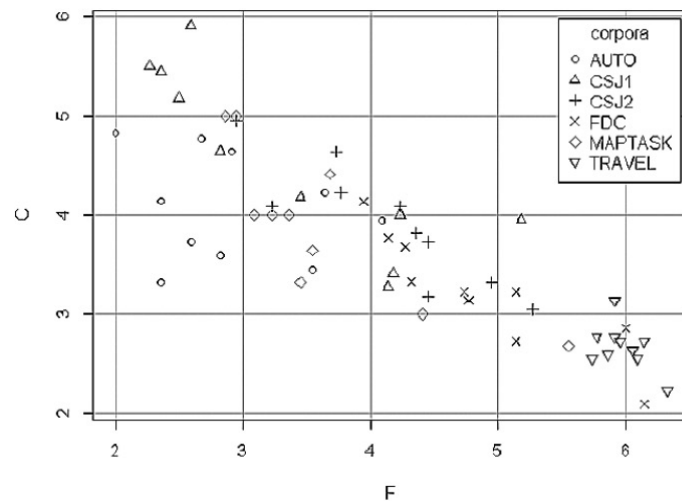
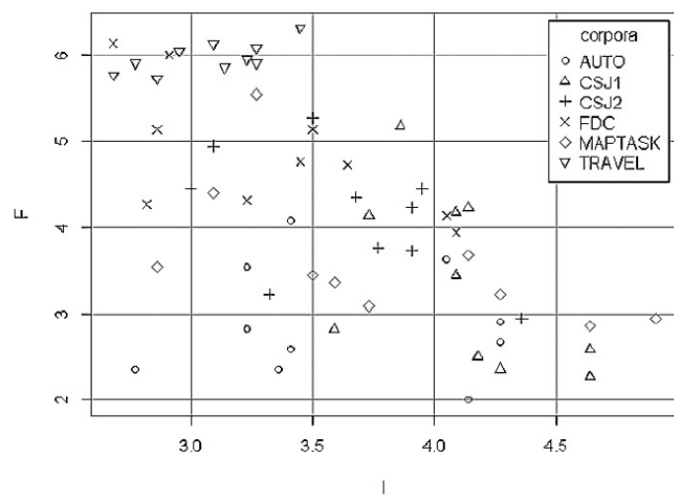
- 日常に現れる様々な会話と会話を比較可能な軸を作る
- 友人との会話といっても、大学生同士の友達・友人夫婦・ママ友同士などある[2]

リサーチクエスチョン

- 対話と対話の違いが比較可能にするための要素は何なのか
- 見つけた軸によって対話の違いを数値で説明することができるのか

先行研究

- コーパスの対話を明瞭さ(I)・社会階層(C)・親しさ(F)の3軸で説明している[3]



ガントチャート

主項目	副項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
先行研究調査	会話と会話を比較しているような先行研究を探す	○									
	沈さんの三軸を日常対話コーパスに適応してうまく表せるのか調べる	○	○								
会話を比較可能な軸を見つける	言語情報のみで全ての会話をうまく表せているか調べる		○	○							
	言語情報とパラ言語情報で全ての会話を表せているか調べる			○	○						
	日常会話コーパスを一般の軸で表すことができるような軸を見つける			○	○	○					
	見つけた軸が妥当であるのかを検証する						○	○	○		
卒論執筆	目次案作成									○	
	図や表を入れる									○	
	本文作成										○

参考文献

- [1] Denes, Peter B., Peter Denes, and Elliot Pinson. The speech chain. Macmillan, 1993.
- [2] 小磯花絵, 菊池英明, and 山田高明. "『日本語日常会話コーパス』への韻律ラベリング-ラベリングの設計と日常会話の韻律の特徴." 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会. 一般社団法人 人工知能学会, 2020.
- [3] 沈睿, and 菊池英明. "音声言語コーパスにおける speaking style の自動推定—転記テキストに着目して—." *自然言語処理* 21.3 (2014): 445-464.